平成　28　年度事務事業評価表（公共事業・継続）

No. 444

事務事業名	池田沖田線県営負担金事業

基本目標	050201	機能的で環境と調和したまち
政策		道路網の整備と公共交通の利便性の向上
施策		道路網の整備
関連施策		

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	都市整備部		
課名	道路課		
課長名	森　幸則	内線	427
担当者名	森　経一	内線	424

事業類型	7	施設等整備事業（負担金含む）
個別計画	大村市都市計画マスタープラン	
重点事業		

会計	一般会計	
款	8	土木費
項	5	都市計画費
目	2	街路事業費
事業コード	020401	県営事業負担金

【PLAN（計画）】

対象（者） 誰（何）に対して事業を行うか	都市計画道路・池田沖田線利用者
意図 対象をどのような状態にしたいか	国道34号のバイパスとして、国道の渋滞を緩和するとともに、当該道路の利用者や地区住民の交通利便性の向上を図る。 併せて、周辺の土地利用の促進や地域の振興を図るため、竹松地区の新たな幹線道路として、都市計画道路池田沖田線を整備する。
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	（小路口工区） 全体計画 道路改築　延長　L＝1,440m　幅員　W＝28m 用地補償　面積　A＝39,061㎡　家屋補償　N＝69棟 （竹松工区） 全体計画 道路改築　延長　L＝1,970m　幅員　W＝20m 用地補償　面積　A＝40,991㎡　家屋補償　N＝65棟
事業期間	平成　20　年度　～　平成　33　年度
実施方法	

成果指標名				算定式等	走行距離／走行速度＝走行時間 富の原鬼橋線（大川田工区）と合算して算定する。
着手前現状値	平成 19 年度	単位	分	14	
完了後計画値	平成 33 年度			6.3	

【DO（実施）】

事業実施項目		25年度まで	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
基本計画	実績・計画額	799,140	207,520	34,013	88,400	64,000	69,000		
	項目別進捗率								
実施設計	実績・計画額								
	項目別進捗率								
用地・補償	実績・計画額								
	項目別進捗率								
建設工事	実績・計画額								
	項目別進捗率								
事務費等	実績・計画額								
	項目別進捗率								
合計	実績・計画額	799,140	207,520	34,013	88,400	64,000	69,000	0	
	項目別進捗率								

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
①事業費（千円）	249,506	207,520	34,013	88,400	64,000	69,000	0	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債	227,500	192,900	30,600	79,500	57,600	62,100		
その他								
一般財源	22,006	14,620	3,413	8,900	6,400	6,900		
②人件費（千円）	874	756	866	519	事業内容	事業内容	事業内容	B／C
職員人数（人）	0.11	0.10	0.12	0.07	測量・工事 1式			
時間外勤務（時間）	0	0	10	5				
嘱託等人数（人）								
フルコスト（①＋②千円）	250,380	208,276	34,879	88,919				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK（評価）】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか（昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等）	竹松工区は、用地取得、物件移転補償及び一部工事を実施。 事業期間について、当路線に隣接する二級河川郡川の改修計画の中で、鉄道橋の架け替えが計画され、当路線と立体交差する箇所に影響が及ぶことが判明した。このため、JRとの協議、調整に長期間を要することから平成33年度まで延伸することとなった。
事業が抱える問題・課題等	

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	国道34号拡幅事業により、国道の渋滞は緩和されつつあるが、桜馬場交差点以北の将来交通量は、混雑度は1．5を超えると推測されている。また、大村市を縦貫する幹線道路は国道34号のみであり、市内外の交通が国道に集中することが交通交雑の要因の一つになっている。さらに、災害時に高速道路や国道が不通になった場合、避難路としての機能が発揮されるため、当該道路を整備することは必要不可欠である。						
	【緊急性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	国道34号の渋滞緩和のため、バイパス的な当該道路を整備すること、また九州新幹線（仮称新大村駅）開通に伴う主要交通機関とのアクセス的な当該道路を整備することは、緊急性をようする。						
有効性	【施策成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	今後の人口増加と交通量の増加に対応するためには、幹線道路の整備は重要であり、その効果は大きい。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	県事業であり、コスト縮減に配慮しながら行うようになっている。						
	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	県が行う建設事業の負担区分が定められており、見直しは困難である。						

【ACTION（改善・改革）】

今後の方向性	現状維持	

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか（課題や問題点等に対する取組など）	県と協力しながら、こおまま事業を実施していく。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり	2次評価	対象外	今後の方向性	
	終期設定			終期設定		
	意見等			内容		

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。